

力 隊 を紹介します！

4月3日(月)、町地域おこし協力隊に4人が着任しました。
地域おこし協力隊は、都市部から地方に移住し、地域の課題解決に向けて最長3年の任期で活動する制度です。

— Mission —
スチューベンの情報発信、ぶどう農家として就農

葛西 忍

—Kasai Shinobu—

Q どちらから来ましたか

出身は五所川原市（高校卒業まで）です。
前職が興行（映画館）の仕事だったため、愛知、秋田、千葉、東京、愛媛とほぼ2年ごとに全国を転々とし、直近は大阪で暮らしていました。

Q なぜ当町の協力隊員になったのですか

2年ごとの引っ越しという子供の教育環境を考え、移住を検討し、青森県の移住フェアに参加いたしました。そこで鶴田町の地域おこし協力隊の先輩である山田さん、川口さんにお話を伺ったところ、スチューベン農家になること、鶴田町での生活、を想像したとき、楽しいことか思い浮かばなかったのが協力隊へ応募しました。

Q 鶴田町に着任しての感想

整然としたスチューベン畑に、手を伸ばしたくなるほどの星空、鶴の舞橋越しに見える青い空と岩木山。その自然の美しさ、豊かさ、人の温かさ、食べ物のおいしさなどなど年齢、さまざま土地での生活、出会いを経て、さらに親となり若い頃は気づかなかったその魅力を再認識している毎日です。

Q どんな活動をしますか

夫婦で3年後スチューベン農家として独立できるよう、まずは師匠からスチューベンづくりをしっかりと学びたいと思います。

おいしいスチューベンづくりのためにいろいろ先輩のご指導を仰ぐなど研鑽に努め「つるたスチューベン」のブランド向上のお役に立てたらと思います。



— Mission —
スチューベンの情報発信、ぶどう農家として就農

葛西 あゆみ

—Kasai Ayumi—

Q どちらから来ましたか

大阪府和泉市から来ました。前職は興行（映画館）の仕事で全国転勤があったため、愛媛県、東京都、静岡県、山梨県、秋田県など各地方を転々としておりました。出身は千葉県流山市です。

Q なぜ当町の協力隊員になったのですか

以前から就農に興味があったことと、子供を自然の中でのびのびと育てたいと思っていたところ、夫が東京で開催された青森県の移住フェアで鶴田町の地域おこし協力隊の方の話を聞いて、これだと思い、応募しました。

Q 鶴田町に着任しての感想

遠くまで見渡せる平野に高くそびえる岩木山、その自然の美しさに日々感動しています。空気がきれいで、水道水でお米を炊いたらおいしくてびっくりしました。役場の方をはじめ、ぶどう作りを教えてくださいたいお師匠さん、皆さんに良くしてもらって、今まで住んだ場所では感じたことがなかった地域のつながりを実感しております。

Q どんな活動をしますか

まずは、つるたスチューベン農家になれるようにぶどう栽培についてしっかりと学びたいと思います。そして私たちのように就農に興味があり、自然の中でのびのびと子育てがしたいと思って移住を考えている子育て世代に鶴田町の魅力をSNSなど使ってアピール出来ればと思っています。



新しく着任した地域おこし協

— Mission —

スチューベンの情報発信、ぶどう農家として就農

田村 博人 -Tamura Hiroto-



Q どちらから来ましたか

東京都品川区から来ました。生まれはむつ市、育ちは品川区になります。母の実家が下北にあり、青森が大好きで幼い頃から毎年盆に帰ってきました。祖母、伯父や伯母と畑仕事をするのが大好きでした。畑仕事後は祖母にくっついて寺へ行き、祖母の友人に可愛がってもらったお陰で方言がわかるので「おい、ひろと！」と声かけていただけると嬉しいです。

Q なぜ当町の協力隊員になったのですか

「人」です。ワは人との「ご縁」が一番大事にしています。移住フェアで花田さん（役場）、山田さん（元協力隊）、川口さん（現協力隊）とお会いして、鶴田町とスチューベンへの思い、熱意、丁寧な対応、誠実な人柄に心を惹かれました。昨年11月に鶴田へ来た際も、沢山の方が出迎えてくださり、皆さんの鶴田への愛を感じ、このご縁を大事にしたいと思ったからです。

Q 鶴田町に着任しての感想

自宅付近から見える岩木山、自然や温泉など、どれもとても素敵ですが、やはりお会いした皆さんが本当に優しいです。近所へ挨拶に行った際も、ワが地域に馴染みやすいようにと、町内会議にお誘いしてもらいご挨拶させていただきました。挨拶後にも、食事へ誘っていただき楽しい時間を過ごすことができました。

Q どんな活動をしますか

スチューベンの栽培、管理や販売方法などを学ぶことがメインですが、今までの経験を活かし、企業へタイアップ企画を提案し、鶴田町のPRイベントや特産品の販売促進を行います。また、健康寿命をのばす+町民が楽しく集まれる場所を提供し、子供からお年寄りの方が、できる範囲で運動を行いながら、社会と触れ合う機会を創出します。

— Mission —

町のプロモーション活動、事業承継・起業

毛利 精悟 -Mouri Seigo-

Q どちらから来ましたか

お隣の弘前市から妻とともに移住しました。TV局、金融、エネルギー、運送、介護などを経て現在に至ります。一番長く経験してきたのは「営業」です。

TV局では営業のほかCMや番組制作を、金融では保険商品や相続相談、事業承継相談などを担当しました。中古トラックの販売なども手がけました。

Q なぜ当町の協力隊員になったのですか

町で【事業承継の候補者】を募集していたからです。

これまでお会いした経営者の多くが事業承継に悩んでいました。尊敬する経営者は皆、「経営は社長一人ではできない。大切な社員がいるからこそできるんだ」と口にしました。いつかは経営に携わりたいと思っていた矢先、当町での募集を知り、応募させていただきました。

Q 鶴田町に着任しての感想

協力隊の担当職員の方をはじめ、役場職員の方々が親切だと感じます。着任後は町おこし関係者の多さに驚きました。当町は関わる人と町職員の関係がとても近くて素敵だと思います。

私は動植物が好きなので、野鳥や植物の多様さが嬉しいです。特に猛禽類（トンビやハヤブサなど）を近くで見かけるとワクワクします。

Q どんな活動をしますか

今は「津軽ぶどう村」で須郷貞次郎代表のもと、特産ぶどうの生産・販売促進・事業経営を学んでいます。休日は町のプロモーションにつながる魅力を探したり、町内外にインターネットを通じて情報発信をしています。

私は課題を見つけて改善していくことに喜びを感じます。鶴田町の課題を魅力に育てていくお手伝いができれば幸せです。

